

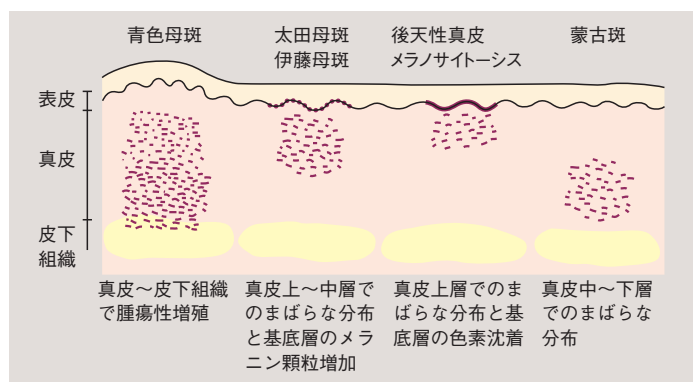


図 20.10 真皮メラノサイト系母斑の分類とメラノサイトの分布様式

治療

外科的切除。悪性化はないが、悪性黒色腫との鑑別を慎重に行う必要がある。

5. ^{クラーク}Clark 母斑 Clark nevus

同義語：異型母斑 (dysplastic nevus)，非典型母斑 (atypical nevus)

思春期前後から生じる。直径 5 mm 以上の斑状ないし扁平にわずかに隆起した母斑細胞母斑であるが、①不整形、②境界不明瞭、③濃淡差のある色調、のうち 2 つ以上の特徴を有するものをいう。基本的には良性疾患であり、加齢とともに消退する。病理組織学的に複合母斑ないし境界母斑の所見を呈する。悪性黒色腫との鑑別および発症の可能性があり、ダーモスコピーを用いた経過観察が必要である。多発性に Clark 母斑を生じ家系内にも同様の臨床像を呈する場合には悪性黒色腫のリスクが高く、異型母斑症候群 (dysplastic nevus syndrome, 常染色体優性遺伝) と呼ばれる。

▶ ^{サットン}Sutton 母斑 → 16 章 p.307 参照。

b. 真皮メラノサイト系母斑 dermal melanocytic nevi

真皮メラノサイトが増殖する疾患群としては、^{せいしよく}青色母斑、蒙古斑や太田母斑などがあり (図 20.1)，疾患によって細胞の分布と臨床像が異なる (図 20.10)。

図 20.11 青色母斑 (blue nevus)